

もんし 聞思

発行所 光山寺
〒758-0063 萩市 大字山田4553
TEL (0838) 22-1370
http://kousanji.net

国のため つくしのみか
伝えつる
みのりの道は
ふみもたがえず
明如上人夫人



松陰の妹・文

「花燃ゆ」の主人公、文さんテーマに研修会

光山寺仏教壮年会(会長、西島孝一)、文化部(野村謙次部長)研修会並びに忘年会が十二月二十日(土)午後六時より光山寺本堂にて開催されました。今年度も講師として萩博物館主任学芸員、道迫真吾氏をお迎えして、「吉田松陰とその妹」と題してご講演いただきました。

今回は、本年からのNHK大河ドラマの主人公である文さんを取り巻く人々として、最初の夫であった久坂玄瑞と文さんの関係、楯取素彦(文の再婚後の夫)の久坂玄瑞への想いなど、新発見をまじえてお話しいただきました。また、大河ドラマのこぼれ話など、約六十名の参加者が話に聞き入り、研修会終了後は、今回も三隅の極楽寺仏教壮年会員四名と光山寺仏教婦人会有志の皆さんが参加され、約四十名のご門徒と共に賑々しく忘年会が庫裏にて開催されました。

■萩仏教会でパネル展示

萩仏教会(会長、東光寺)では、本年の花祭り(お釈迦さまの誕生日)にて、維新百五十年を記念したパネル展示を行う。今年、幕末維新に活躍した志士ゆかりの寺やお墓、遺品などをパネル展示にて紹介する予定です。大河ドラマなどでは紹介されない隠れた志士ゆかりの場所(お墓)や遺品が紹介される貴重な展示となる予定です。また、今年、昨年募集した仏教会ゆるキャラである「萩ぶつちゃん」の実際の着ぐるみも披露される。開催日時と会場は、四月の第一日曜日にアーケードのイベントホール、詳細日程は決定次第ポスター掲示の予定です。



山口別院定例法座・毎月五日午後一時半(一月は十時半)

萩こころの電話(三分間法話) Ⅱ25-7710

西本願寺の時間(KRYラジオ) 毎週日曜日午前六時から六時十分

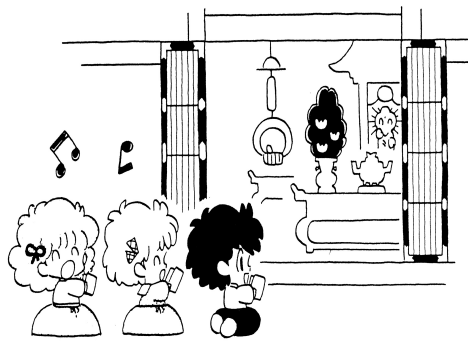
■子供報恩講へご参加ください

一月十六日は宗祖親鸞聖人のご命日、毎年一月の日曜学校は、「こども報恩講」と称して、お勤めの後、お齋にゲームと子供達と父兄も一緒に楽しい時間を過ごしています。毎年多くの皆さんに参加いただいています。小学生までのお子さんがいらつしやる父兄の皆さんにおかれましては、お正月の子供報恩講に是非とも一緒にご参加下さい。参加費等は無料です。

日時：一月十二日(月曜、祝日)午前十一時～午後一時頃
会場：光山寺本堂にて

■「正忌報恩講(ししよつきほうおんこう)」

親鸞聖人のご祥月(ししよつき)命日を縁に一月九日から十六日の一週間営まれる本願寺最大の年中行事です。期間中、全国から僧侶・門信徒が多数参拝し、聖人のご遺徳を偲ぶとともに浄土真宗の信者としての自覚を新たにします。新門主となつて初めての報恩講法要です。是非お参りください。



■萩組門信徒の集い 今年も市民館で開催

萩組門信徒の集い(記念法座)は、今年も相愛大学文学部教授の萩徹宗師を迎えて、萩市民館にて七月一九日(日曜)に開催されます。宗教学者として活躍の萩先生による「落語と仏教」についてお話される予定です。実際の落語家も来場され、落語が一席設けられます。

■秋の叙勲

平成二十六年度の秋の叙勲にて、光山寺門徒の来嶋弘昭さん(山田地区、七六才、当時)が、元萩市消防団分団長として瑞宝単光章を受章されました。来島さんは四〇年にわたって消防活動に尽力され、地域防災に務められました。

光山寺行事案内

平成二十七年の光山寺前期行事予定の一覧です。万障繰り合わせてご参加ください。

★萩組・光山寺法要関連

- 一月一〇日(土曜) 午前十一時半 最勝講(玉江地区)
- 一月二三日(金曜) 午後七時 萩組連続研修(長泉寺)
- 二月一日(日曜) 午後七時半 門徒推薦連絡協議会(真行寺)
- 三月二日(土曜) 午後七時 萩組連続研修(真行寺)
- 五月一・二日(金・土曜) 春季永代経法要(講師、中島昭念師)
- ★子供会(日曜学校) 関連 午前九時より開催
- 一月一・二日(月曜) 午前十一時 子供報恩講
- 以降、二月 八日(日曜)・三月一五日(日曜)
- 四月一・九日(日曜)

★仏教青年会 関連

一月十二日(月曜) 午前十一時 子供報恩講と同時開催

★仏教壮年会 関連

- 三月二八日(土曜) 午前十時 山口教区仏教壮年大会(四〇周年記念)
- 五月 下旬 午後七時半 光山寺仏教壮年会総会(山口県健康づくりセンター)
- 六月 未定(日曜) 午後三時 光山寺ソフトボール大会

★仏教婦人会 関連

- 二月下旬・四月中旬 光山寺仏教婦人会常任委員会・全役員会
- 五月一七日(日曜) 午前九時半 光山寺初参式

★親鸞聖人讃仰会(登録制・要年会費二千元)

四月二三日(月曜、午後八時)、六月一五日(月曜)以降、隔月原則月曜日、午後八時庫裡にて開催。十月まで四回開催

★礼讃の夕べ(旧、正信唱和会、一般参加可・無料)

- 五月 九日(土曜) 午後八時 光山寺本堂
- 六月一三日(土曜) 午後八時 光山寺本堂
- 七月一一日(土曜) 午後八時 光山寺本堂
- 以後、毎月第二土曜、午後八時開催。十月まで六回開催。

★雅楽練習会(原則日曜午後七時半。不定期開催)

一月一八日(日)・三月一五日(日)

※コーラスの日程についてはお問い合わせください。

■募金箱報告■

WWFJ(世界自然保護基金日本委員会)の募金箱(焼香卓よこ)に集まった募金一万一千六十三円を十二月三十日に送金致しました。沢山の募金大変に有り難うございました。また、仏教婦人会設置の募金箱に集まった募金は、広島豪雨災害救援義援金として、夏に十万円を広島別院に直送送金いたしました。(詳細前号報告済)募金箱は引き続きそれぞれ設置してあります。今後ともご協力宜しくお願い致します。



■初参式のお知らせ■

親鸞聖人の誕生月である五月には毎年婦人会主催により初参式を実施しています。今年も五月十七日(日曜日)午前九時半より光山寺にて開催されます。生後一年くらいまでのお子さんが対象となるが、仏の子として育つため仏教のご縁に初めてあう合同の初参式です。参加希望の方はお子さんのお名前・生年月日等を光山寺までご連絡ください。尚、当日参加できない方は個別の初参式や自宅での初参式も受け付けています。是非お申し出ください。



■親鸞聖人鑽仰会会員募集！■

親鸞聖人のみ教えを鑽仰し、同朋としての親睦を深める事を目的とした「親鸞聖人鑽仰会」を今年も四月十三日よりスタートします。新規会員を募集いたします。ご門徒に限らず、年齢・男女を一切問わず広く親鸞聖人のみ教えを仰ぐ方々の集まりです。年会費は二千円で二ヶ月に一回の開催。本年度は、正信偈を学ぶをテーマに、「季刊せいてん」をサブテキストとしながら学習します。『浄土真宗聖典(註釈版)』が必要となりますが、お持ちでない方は当日お申し出ください。原則偶数月、月曜日午後八時開催となります。時間にはご注意ください。詳しい申込みについては別紙をご確認ください。



■法話「ホンモノの宗教」■

大阪教区 豊島学由

私はまだニセ札をつかまされたことがありませんが、ニセ札は、ホンモノそっくりなので、よほど注意しないと分からないそうです。大体ニセモノの特徴は、ホンモノによく似ているという点にあります。だからホンモノを知らない者は、ニセモノをつかまされるはめになります。

世の中には、いろいろなニセモノが横行していて、人をだましています。だまされないように常にホンモノに親しんでおく以外に、ニセモノを見破る方法はないようでございます。ニセ札を見抜くのは、やはり銀行員が一番早いそうです。それこそ常にホンモノに親しんでいるからでしょう。

宗教についてのニセモノとホンモノのけじめを親鸞聖人から教えて頂いたおかげで、ニセモノの宗教の誘惑にかかるともございません。毎年おつとめ致します報恩講は、親鸞聖人にお礼を申し上げる浄土真宗の大切な法要であります。聖人にお礼を申し上げるもの一つに、今申しております宗教を見る眼を与えて頂いたということがございます。

宗教は人生の一部分ではなく全体の問題でありますだけに、ニセモノの宗教を見抜けなかつたら、大切な一生が台なしであります。聖人のおかげでニセモノの宗教にかかわらずに、真実によつて人生を送らせて頂くことのできることにお礼を申さずにはおれません。さてホンモノの宗教のポイントは、聖人の仰せには人間の一切のはからいを認めないという点であります。自己中心の欲望はもとより、正邪善悪にとらわれると御信心の真実性はゆがんでしまいます。真実の教えとは、自分の宗教を正しいと主張することではなく、むしろ自分の正しいとか善いことをしたという心を、くだいて下さるのが真実の教えなのであります。

(テレホン法話集「いつでも どこでも」(第1集)より転載)

■念仏者列伝「松陰の母、滝」■

吉田松陰の実母である滝は、毛利志摩(毛利家一門の阿川毛利家)の家臣村田右中の三女として誕生し、二十歳のとき藩士児玉太兵衛の養女となり藩士杉百合之助(常道)と結婚した。三男四女をもうけ、性格は温容・親切で勤儉に努め、馬を使って農耕にも従事したと伝わる。安政六年五月二十四日、安政の大獄にて江戸送りとなる松陰が、出立直前に一晩だけ野山獄から杉家に戻った折には、仏壇に灯明をあげながら、松陰に無事に帰れるように拜めと促し、松陰が素直に手を合わせたという光景が伝わっている。また、松陰が処刑され、その咎が夫に及ぶも少しも動じず、明治九年の前原一誠の乱では、孫の小太郎や一族が参戦死亡するも一も誤りなかつたという。

晩年の明治二十二年十二月二十七日には滝の病氣平癒の故、品川弥二郎を通して皇后陛下賜の恩命が夫の民治宛に伝達された。この時、本願寺から山口出身の小野島行薫が、萩別院に向向していたので、滝は行薫を招待し、親戚、友人に対して恩賜披露のための法話を開いている。

しかし、晩年は肥満等により起居も不自由であつたようで、翌年明治二十三年八月二十三日に往生の素懐を遂げている。葬儀には、明如上人夫人の追悼の歌として、

国のため つくしのみか 伝へつる

みのりの道は ふもたがへず

が贈られた。使償として小野島行薫がこれを持参して、滝の仏前に供えたという。院号法名は「實成院釋智覺乘蓮」であつた。

註

①松陰に学んだ松下村塾生で最も長生きした人物の天野清三郎(渡辺藩蔵、天保十四年(一八四三)・昭和十四年(一九三九)の談話記録による。(福本義亮『吉田松陰の母』一九二頁、誠文堂新光社、昭和十六年(一九四一))

②これは、明治十六年、『吉田松陰の母滝子』なる書が、三条公の手を経て明治天皇に供せられるところとなつたようで、殊に皇后陛下の慈しみ深き言葉が品川弥二郎により伝えられている。また、明治二十三年の二月十一日憲法発布の盛典には、松陰には正四位が贈位されている。